

腰部脊柱管狭窄症

年を取れば、それなりに体のあちこちに不具合が生じる。すぐにも医者に診てもらえば良いものを、なぜか延ばし延ばしになるようだ。

知人のTさん。82歳。道の真ん中で、腰をかがめてじっとしている。お尻から脚にかけてしびれ、動けないと言う。腰や脚に痛みはないが、顔をしかめている。

「それじゃあ、好きなゴルフもできませんな」と言うと、「カートがあるから大丈夫。今度いっしょにプレイしよう」と強がってみせた。

長く歩いたり、立っていたりすると、脚のしびれや痛みが起きる。が、休むと回復してまた歩ける。この休み休みしか歩けない状態を「間欠性跛行」と呼び。足の動脈硬化がひどくなっても起きるが、Tさんの場合は、腰の「脊柱管狭窄症」が原因ではなからうか。

脚の感覚や運動の神経というのは、腰にある馬尾神経につながっている。脊柱管というのは、その馬尾神経の通り道である。

加齢とともに脊柱管は狭くなる。椎間板が変形し、腰椎の変形や靱帯の肥厚も起きるからだ。

脊柱管が狭くなると、馬尾神経が圧迫される。神経の血流が悪くなって、脚の症状が起きてくる。で、背骨を反らすと脊柱管は狭くなり、前に曲げると広くなる。休むとまた歩けるようになるわけだ。

今はまだゴルフもできるだろうが、進行すれば家の中を歩くことも大変になる。排尿障害でも出たらどうする。そうなる前に、手術で脊柱管を広くしてやらなければならない。が、その手術も神経がダメになってからでは、症状が残るのだ。

と脅かしたら、「こんな歳で手術なんて」と、Tさんはやっとその気になった。なに、今どき80代なんて、まだ若い。

「今度、整形外科の良い先生を紹介しましよつ」。確か2年前にも同じことを言った記憶がある。

(石黒修三||いし黒ろく三||脳神経外科専門医...531北國新聞掲載)